

情況への戦士よ！

2連撃に結集せよ

情況の中の個人は情況を自己の内面にも共有している。弾劾の対象は未だもって自らの内に見出され、看発の論理はなによりも自己の内面に凝縮される。思想が世界を動かし得るために、世界の外側で思考を営まなければならぬ。情況に宿した思考は、情況を切開しつつ普遍性を獲得していくが、それは思考する主体の否定と変革を伴って変能となる。一皆而上に我らの世界を、東大金共斗議長山本義隆

自己を含めた世界を対象化し、擬制的普遍なら、矛盾をぐり出し、普遍的擬制を日常性の流れの中に、自己の存立基盤の虚無性に、变量を間を持て立向こうとき、それは、尾たれたりの論理からくちれるべき論理に自立する。東大斗争を開展した世界は、客体としての東大の否定と主体としての個の独立の緊張關係を運動体の全共斗を通して「内なる東大の否定」としての主体の創造し、自己否定は新たな自己創造と、更なる社会変革の担い手

となる。本来の世界の関係は、要請書に構築された精の上の我々が世界に物質化された。

情況裏裏看する所2連は何をなすべや？

明らかに、70年保健の自殺対策として、权力の方も前回の重編を、進める。申教審議事務官、文部省次官通達等々は、斗争工具の原根であり、并びく着実の自治を実現する大學生として、权力の全面規制として有り、看付指揮等の實力者を除く、何れ別個表にあうとは、*教委会解体、懲戒報廢止、*効率撤回、*委員会全自主管理権、*農核審後期方針施設、*寮宿全自治権、健保未回復は農核を負担せしものワ預りを求める事、下級の斗争課題の総括とし、申教審議事務官、間接大斗争基準化し、在籍学生の生存率、三尖权利物預りを追乗せしもの、懲戒助手共斗会議準備会議と、渠の総括とし、その上を早急に玉置機会統合する所夢が現る。各々の元行財政の湖南巣起じ、斗川に在り、老練相我らの翅膀は組天東矣。

15日 PM12:30 学館九会議室